



JAC北九だより

No. 106 (令和 7 年 第 1 号)

公益社団法人 日本山岳会 北九州支部

Kitakyushu Section of The Japanese Alpine Club

発行：公益社団法人 日本山岳会北九州支部
 支部長 竹本 正幸
 事務局：北九州市小倉南区志徳 1-1-29-104
 清家 幸三方
 TEL 自宅 093-963-2160
 携帯 090-8664-4411
 編集人：橋川 潤
 印刷：山口県山口市水の上町 2-25
 内藤 製本所



八ツ岳赤岳頂上山荘からの冬の朝日 (写真 安藤匡)

新年のごあいさつ

北九州支部長 竹本 正幸

新年あけましておめでとうございます。旧年中は、支部の活動にご協力いただき誠にありがとうございます。

今年は、日本山岳会創立 120 周年です。北九州支部は 25 周年になります。

この間、会員の減少が止まらず、支部友を含めると 10 年で 57 人減少しています。入会者を増やすことと退会者の減少、この両輪を進めていくことが支部の重要課題になっています。

会員の高齢化対策としてはポレポレ山行を実施していますが、参加者は減少しています。沢山の人が末永く山行を楽しめるよう充実させていきます。

支部会員のレベルアップに関しては、本部が行っている初級入門講座に合わせて、今年も登山教室を計画中です。

会員同士のコミュニケーションについては、ラインの活用、ホームページの充実。また、月例山行に参加していただく。そのためにも多様なニーズに対応した山行計画を立案します。

他支部との交流会は、今年からは四国支部、広島支部、山陰支部と四支部交流会が実施されます。

今年は、北九州支部が担当することになり、皆様のご協力をお願いします。

Geo トレッキングや森林保全巡視活動、平尾台のムラサキ保護活動やセイタカアワダチソウの除去、保育園児のサポート、風師山の草刈りなど社会的な活動も続けます。

月例山行や支部行事に 1 人でも多く参加して頂き「みんなの山岳会」を目指します。

山登りには「三分の一原則」という考え方があります。登山に必要な時間・体力に関して登り・下り・余裕の三つに分けて計画を立てること。特にシニア登山に関しては時間と体力に余裕をもって行動することが必要不可欠です。

現状を一步前に踏み出すためには、何をしたらよいか。安全な登山、楽しい登山、みんなが参加できる登山をスタンスにみんなが北九州支部の活性化を図っていきましょう。

最後に会員の皆様のご多幸を祈念し、また北九州支部がますます発展しますよう、なお一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和6年10月27日(日) 第8回 榎有恒碑前祭
～引き継がれる山岳祭にふさわしい祭典～
17283 将口 晋司

10月の第4日曜日、門司区の風頭にて開催された「榎有恒碑前祭」に参加させて頂きました。私は2年振りの参加でした。前は入会后間もないということもあり、先輩方に着いて行くだけでしたが、今回は集合時より簡単な役目ですが出席確認と冊子及び記念品の配布を手伝わせて頂きました。

記念登山では後発隊として出発、山頂近くの駐車場にて先発隊・乗用車組に追い着きました。その後、私の近くを登られていた先輩が41歳年上であることに驚嘆致しました(日頃より心身を鍛錬すれば、まだ40年は登山が出来るのだ。これから知識と経験を積み、多くの山に行くことも出来る!)。

風頭では、榎有恒碑を讃えるようにJAC旗と祭典の幕が掲げられ、花束とお酒も添えられました。支部長による挨拶が行われ、来賓の方々より支部と祭典に対しご祝辞を頂きました。また、参加者全員による「山の友よ」が歌われ、記念撮影を行ないました。『引き継がれる山岳祭』にふさわしい祭典となりました。

食事会は、榎氏の資料(と信条)が展示された中で行われました。ほど良くお酒も入った中で支部長の榎氏に関するエピソードを皮切りに、榎氏



石碑 (写真 安藤匡)



風頭での集合写真 (写真 安藤匡)

が結成した慶應義塾山岳会の後輩の方による逸話、榎氏のご子息よりのお手紙、東九州支部の方がご持参された写真など榎氏にまつわる話で盛り上がり、記念切手の販売も行われ盛大なうちにお開きとなりました。

当日は、小雨の予報もありましたが、役員の方々の事前の十分な準備により、記念登山と祭典、会食終了までスケジュール通り順次ことが運ばれ、来年に継ぐことを誓った素晴らしい祭典となりました。

—新聞に掲載されました—

マナスル日本隊隊長 榎有恒を顕彰 碑前祭
門司・風師山頂40人参加

元日本山岳会会長の榎有恒(1894年～1989年)を顕彰する恒例の碑前祭が10月27日、関門海峡を一望する門司区の風師山頂であり、約40人が参加した。

榎は1956年、ヒマラヤ山脈マナスル(8163m)への世界初登山を果たした日本隊の隊長。その報告のために門司を訪れ、風師山頂からの光景を絶賛した。山頂には榎の文章を記した碑が建てられている。

参加者は碑前に献花した後、戸田豊鉄作の「山の友よ」を歌い榎をしのいだ。碑前祭は2017年に始まり8回目。主催した日本山岳会北九州支部の竹本正幸支部長は「榎さんの偉大な功績を今後も伝え続けていきたい」と話した。

(毎日新聞 2024年11月9日 朝刊より引用)

参加者：森武昭(神奈川支部 元会長) 坂井広志(山岳祭プロジェクトリーダー) 柳田泰則(本部山行委員) 岡田輝子(関西支部) 加藤英彦(東九州支部) 阿南寿範(東九州支部) 下川智子(東九州支部) 吉川正幸(慶応義塾大学 08) 伊藤禎洋(京都支部) 小田幸雄(門司歩こう会 会長) 柳原武志(風師山早朝登山会) アキノ・トーレス・ホアン・カルロス(風師山早朝登山会) 伊藤和人(毎日新聞社)

北九州支部参加者24人：園川陽造 日向祥剛 原広美 板倉健一 伊藤久次郎 馬場基介 高畠拓生 関口興洋 丹下洽 榎俊一 丹下香代子 竹本正幸 竹本加代子 森本信子 縄田正芳 縄手修 町元里香 清家幸三 横山秀司 野副勇 橋川潤 大山時彦 将口晋司 安藤匡

榎有恒碑前祭 記録ビデオ

— 除幕式～第7回を振り返って —

制作：伊藤久次郎

(上映：1時間14分)

- ※ 榎有恒の経歴が分かります
- ※ 風頭で行われる榎有恒碑前祭のことが分かります
- ※ ビデオは、BD(ブルーレイ)とDVD(AVCHD)ディスクで制作しています

- ※ 送料とも一枚千円でお分けします

お問合せ： 伊藤久次郎 TEL：090-8837-2696



令和6年7月6日(土) 第一回登山入門講座
『安全登山に対する心構え』
北九547 吉田 さや

令和6年7月6日(土) 月例山行
ロープワーク(確保技術研修)
—北九州市立玄海青年の家にて—
北九543 田和瀬 修

A班 講師：磯野文雄

A班は午前中に机上講習会でした。私を含め、たった二名の受講生の為に、様々な資料をご準備いただきました。この場を借りて、お礼申し上げます。

机上講習では、普段何気なくやり過ぎていた『安全登山に対する心構え』などを改めて学習しました。私の様にYOUTUBE先生に仕え、我流で登山を始めた者にとって、何気なくやり過ぎていた事を再認識させられる大変良い機会になりました。『登山中は、急がせるような言動やイライラしたような態度は絶対にとらない』という記述は、家族や忌憚なく話す友人と登山する事が多い私の為にあるような記述で、大いに反省させられました。

日本山岳会には、山岳の精神と共に受け継がれてきた伝統があり、今回の登山講習でもその重要性が強調されていました。特に「ノブレス・オブリージュ(高潔なる者の義務)」という概念が印象深く心に残るものでした。山岳会の伝統には、技術だけでなく、精神的な高潔さや他者への配慮が深く根付いています。これらの伝統的な価値観は、現代の登山にも重要な指針となっており、次世代にも継承されるべきものだと感じました。

午後の部は午前中の机上講習会とは大きく異なり、実技を通じて確保技術を学ぶ内容となりました。寺崎講師からは細かい動作のミスや注意不足に対して、即座に修正の指示が入り、緊張感を持って取り組む場面も多々ありました。しかし、その厳しさの中には、私たち受講者全員が確実に技術を身につけ、安全に業務を行えるようになるための深い愛情を感じました。寺崎講師は、一つ一つの技術がいかに重要で、現場での命に関わるかを強調しており、その熱意は十分に伝わってきました。

実際のところ、日々の業務や生活の中で少しずつその知識や技術を忘れかけている自分があるので、機会があれば、再度講習会を受け、今回学んだことをしっかりと自分のものにし、確実に現場で活かせるようになりたいと思いました。

参加者(受講者)：安倍功 吉田さや

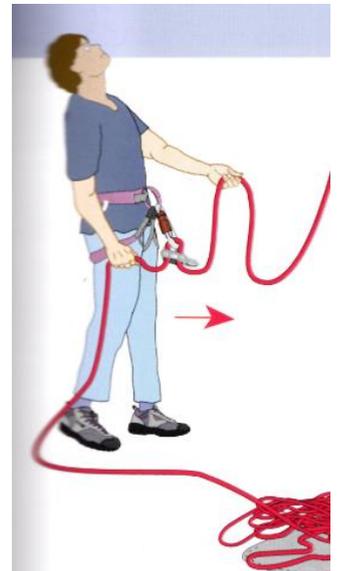
講師 福岡県山岳・SP連盟指導委員長 寺崎良夫

私がこの研修に参加した理由は、昨年、皿倉山の国見岩での懸垂下降、岩登りを体験し確保技術の大切さを身をもって体験したからです。その時、支部長の竹本さんから、「登るより信頼されるビレイヤーに」の強い一言が耳から離れませんでした。

そして、今回の研修でも講師の寺崎さんからの強い言葉。ビレイヤーとクライマーの確保技術、ビレイデバイス・カラビナ・ハーネス・ロープワークの確認は「人を守る。自分を守る。」ことだと。落としたカラビナを拾おうとして死亡したベテランもいる。「たった2300円で命を落とすな」確保技術の核心が理解できた一言でした。

また今回の研修で教わったことは、災害ボランティアなどでも役立つのではないかと思います。

今後も「信頼されるビレイヤー」を目指し、技術取得のために参加します。



参加者17人：磯野文雄 竹本正幸 竹本加代子
縄手修 町元里香 清家幸三 大山時彦
将口晋司 安藤匡 水落ゆかり 綱川和幸
田和瀬修 安倍功 吉田さや
ビジター：渡邊利博 山口泰浩 吉田康弘



原木栽培のナメコ(写真 橋川潤)

令和 6 年 8 月 24 日 (土) 月例山行
 ～生まれて初めての沢登り～
 北九 5 4 2 綱川 和幸

コースタイム：入渓 7：55→退渓<昼食>
 10：20/11：00→駐車場 12：21

福岡県嘉麻市というところにある屏川へ、生まれて初めて沢登りに行きました。昨年は天候が悪くて中止になってしまっていて残念でした。

今年は天気が良くて、台風も大丈夫でした。想像ではもっと深く、川の中に苔が生えていて滑って転ぶイメージだったのですが、水の中には苔は無く魚もいなくて水はきれいでした。程々の冷たさで気持ちよかったです。

ですが、足元ばかり見ていたので硬いものに頭を思いっきりぶつけました。ヘルメット被っていて良かったです。今回はベテランの先輩と一緒にいったので安心して楽しく経験をすることができました。



沢のぼり (写真 竹本加代子)

また、ダジャレを連発して気を引き締めてくださる先輩もいらして、とても楽しい山行でした。

来年も行きますからよろしくをお願いします。

参加者 7 人：竹本正幸 (CL) 竹本加代子 縄手修 奥田スマ子 中畑智子 大山時彦 綱川和幸

令和 6 年 9 月 21 日 (土) 月例山行 鷹ノ巣山
 ～残暑見舞い、体力強化の岩稜歩き訓練～
 北九 5 4 7 吉田 さや

コースタイム：高住神社駐車場 9：00→薬師峠鷹ノ巣山登山口 9：35→一ノ岳 9：47→二ノ岳 10：36 →三ノ岳 11：34→薬師峠鷹ノ巣山登山口 13：40→豊前坊駐車場 13：56

福岡県田川郡添田町と大分県中津市の県境にある鷹ノ巣山へ月例山行で行きました。

私にとって初の山行で、大先輩達についていけないのではないかと不安がありましたが、難所ではロープを張っていただいたり、足をかける位置を具体的に指示していただいたりして、楽しく安全に登山する事ができました。普段は子供と一緒に比較的ゆっくりとしたペースで登山しているため、今回の先輩方の速いペースには驚かされると共に、年齢とは単なる戸籍上の数字だと再認識させられました。

東シナ海を北上していた台風 14 号が、冗談みたいなルートで九州に戻ってくる予報になっていたため、当日の天候が危ぶまれていましたが、少し風があるくらいで、暑すぎず寒すぎず、絶好の登山日和でした。また、下山直後に雨が降り出すというスーパーファインセーブは、メンバーの日頃の行いの賜物だったに違いありません。



登山口の駐車場で (写真 折野道法)

参加者 7 人：縄手修 (SL) 塚本久嘉 藤原玲子 折野道法 橋川潤 大山時彦 (CL) 吉田さや

令和 6 年 10 月 12 日 (土) 月例山行 1 日目
 「魔女の山・・虚空蔵山」
 ～昔、山容が魔女の帽子に見えて
 子供たちが言った魔女の山～
 1 7 3 6 6 久保 正志

コースタイム：木場駐車場 (登山口) 10：58→冒険コース・ファミリーコース分岐 11：10→寺屋敷跡 11：25～虚空蔵山山頂 (昼食) 11：50/12：20→<ファミリーコース>→登山口 13：00

令和6年10月13日(日) 月例山行 2日目

経ヶ岳～多良岳

16562 三浦 利夫

今年の夏は異常な程の猛暑で10月に入っても尚、暑い日が続いています。3連休と天候に恵まれて多くの観光客でにぎわっているようで、九州道・長崎道ともに少しかだけ渋滞していました。今回の山行は11人の参加です。午前7時30分にJR下曾根駅に集合し、基山パーキングエリアで1人と合流して、一路長崎県と佐賀県の県境に位置する虚空蔵山(608.5m)へと向かいました。佐賀・長崎県の山は初めてなので、事前に虚空蔵山を調べていた時、昔、家族と長崎方面への旅行の際に、子供たちが「魔女の山だ」と言っていた山ではないかと思いました。山容が尖っていて魔女の帽子に似ていたからです。九州百名山の一つで「九州のmatterホルン」と呼ばれているとのこと。

木場登山口に到着した後、冒険コースを辿り1時間程で山頂に着きました。途中、落葉で足が滑りそうになりながら、また岩がゴロゴロした箇所を通り抜けながら登りました。山頂は少し霞んでいましたが、大村湾やその奥に広がる西彼杵半島、明日向かう多良山系の山々を見渡すことが出来、晴天に感謝しました。昼食後、帰りはファミリーコースで登山口に戻りました。1時間30分程のコースタイムで、明日のための準備運動といった感じでした。低山ですがクサリ場やハシゴ、ロープなど変化に富んだ山でした。



虚空蔵山頂 (写真 竹本加代子)

下山後、嬉野温泉の公衆浴場「シーボルトの湯」で汗を流し、嬉野市営広川原キャンプ場で美味しい夕食を済ませた後、バンガローで1日目を終えました。



アナグマ (写真 橋川潤)

コースタイム：黒木登山口駐車場 8:00→つげ尾分岐 9:50→経ヶ岳 10:20→中山越 11:30→多良岳 13:30→国見岳 13:50→金泉寺(山小屋) 14:00/14:25→黒木登山口駐車場 16:10

月例山行2日目は、宿泊場所である広川原キャンプ場を7:00に出発して黒木登山口駐車場に移動し、装備を調べ準備運動の後、8:00登山を開始する。車道～林道をしばらく進み登山道に入って行く。登山道も徐々に勾配が急になる。ガレ場で足下も悪く、苦しい時が続くが、登り続けると尾根(つげ尾分岐)に出る。その尾根を30分程進むと、経ヶ岳山頂に到達。天候にも恵まれ山頂からの眺望も良く、これまでの疲れを癒やしてくれます。

休憩の後、鎖場の急斜面を下り、中山越を経て



経ヶ岳山頂 (写真 町元里香)

多良岳に到着する。記念撮影を終え眺望のある国見岳に立ち寄り金泉寺に向かう。金泉寺にて休憩し、登山道～林道～車道を経由して無事駐車場に戻ってくることができました。

登っている時は苦しみを感じながらも、登山を終えるとまた行きたくなるのは何故でしょう。言い尽くされている事とは思いますが、苦しみの先にある達成感、充実感を求めて再び山頂を目指している事でしょう。改めて登山の楽しみを感じました。

計画していただきました竹本様ご夫妻をはじめ、ご参加された皆様のお陰で安全に山を楽しむことができました。ありがとうございます。

参加者 11人：竹本正幸(CL) 竹本加代子(SL)
縄手修 町元里香 清家幸三 奥田スマ子
三浦利夫 中畑智子 藤原玲子 安藤匡
久保正志

令和 6 年 10 月 20 日 (日)
 ～ 登山入門講座 ～
 < 三高山にて気象・地図読み講習 >

三高山の山小屋に集合して最初は広場で机上講習を 60 分程した。地図の整置に始まり、地図上の尾根や谷を立体的に見ること、高低差や距離、概略図の書き方、など基本的な事を学んだ。コンパスの使い方では、三角形に移動して元の位置に帰る練習。その後、山を歩きながら尾根の分岐、谷など地図上で確認しながらの山行となる。

三高山から白馬山～大法山～展望台まで行き白馬山まで引き返し、梅林公園に下山した。

気象に関しては、観天望気を主体に 10 種類の雲の特徴などの説明があった。



地図読み講習の三高山山小屋 (写真 清家幸三)

参加者感想

北九 5 4 5 安倍功

登山用コンパスの使い方は、本で読んで頭では理解していたのですが、いざ実践してみるとなかなかスムーズにいかず、慣れるのに苦労しました。やっぱり実践することが大事ですね。

北九 5 4 6 大谷陽子

コンパスの使い方、地図の見方をしっかりと教えていただいたので、これから登山の前には地図を用意し練習して慣れて行きたいと思います。

また雲や風を日頃から意識して観察しようと思いました。

三高山の山小屋が立派で景色が良くとても良い場所でした。雨でキャンプができなかったことが残念でしたがまた機会があれば参加したいです。

北九 5 4 7 吉田さや

地図アプリに頼ることが多くなり、コンパスや紙地図から遠ざかっていた自分にとって、今回の読図講座は紙地図の重要性を再認識する良い機会となりました。地図上での自分の位置を正確に認識することが、読図において最も大切だと認識しました。そして、そのためには経験値が必要であることも感じました。

アプリだけに頼らず、普段から紙地図を持参して、少しずつ読図の経験を積んでいきたいと思えます。

北九 5 4 8 片手すみ子

三高山での講習会お世話になりました。地図読み? 何度やっても難しい。初歩から取り組まなければと改めて反省した一日でした。今後ともよろしく願いいたします。

令和 6 年 11 月 3 日～4 日 宮崎ウェストン祭
 第 3 7 回ウェストン祭に参加して
 14853 竹本加代子

季節外れの台風 21 号の後、陽を浴びて銀色に輝くススキ。三秀台はいつも風光明媚にふさわしい台地である。さわやかな晴天のもと第 3 7 回のウェストン祭が粛々と行われた。榎有恒碑前祭との違いは町を挙げての祭典であり、町長初め町の関



三秀台でのウェストン祭式典 (写真 竹本加代子)

係者の祝辞が多く続いた。夕方からは地元の方々との交流会が寒い中始まった。神事が行われ、燃え盛る焚火と地元の方々のおもてなしが続いた。過去にはあった地元ソウルフードの鳥の炭火焼きや手作りの炊き込みなどは姿を消していた。楽しみにしていたのでお尋ねすると高齢化が進み作る人がいなくなったとのこと。カッポ酒は冷えた体にしみわたり、見上げれば星空のきれいな夜でした。その後ひめゆりセンターで 4 支部の懇談会が行われた。

翌4日は自主山行になっており、各支部それぞれの山に向かう。我々4人は祖母山へ向かう。

林道は修復が進みガタガタ道も短くなり舗装が行われていた。7時過ぎに出発したにも関わらず数ヶ所ある駐車場は満車状態であった。登山口から少し下ったところに駐車する。



祖母山山頂 (写真 大山時彦)

登山ルートは上り風穴コース、下りは国見峠經由の周回コースを選択。風穴コースは初めてのコースで少々雨後のぬかるみがあったものの歩き易い面白いコースであった。紅葉は残念ながら期待通りではなかったが久しぶりに秋の祖母山を楽しんだ。

祖母山コースタイム 北谷登山口 7:25→風穴 8:26/8:39→祖母山 9:57/10:27→国観峠(昼食) 11:03/11:36→展望台 12:23/12:30 北谷登山口 13:30
行動時間 6時間5分

参加者 6人：日向祥剛 竹本正幸(登山) 清家幸三(登山) 横山秀司 大山時彦(登山) 竹本加代子(登山)

令和6年11月9日(土)～10日(日)
～「広島・山陰・四国」3支部+北九州支部交流会～
13532 馬場 基介

令和6年11月9日～10日、広島県廿日市市アルカディアビレッジキャンプ場で標記の交流会が実施されました。

今回は、広島支部が当番の北九州支部との交流会と山陰・四国3支部交流会が重なったため4支部合同の交流会となりました。キャンプ場にそれぞれテントを張り、すぐ横にテーブルとバーベキューセットが設置された正に山友の交流会会場です。山陰支部4人、四国支部13人、広島支部14人、当支部7人の総計38人、記念写真も素晴らしいパノラマ写真となりました。



参加者全員写真 (写真 四国支部今井順一)



会場のキャンプ場 (写真 四国支部今井順一)

森戸隆男広島支部長の歓迎挨拶の後、各支部の活動状況などが発表されました。次に、各テーブルごとの交流が行われました。準備・運営等をしていただいた広島支部の会員は、比較的若い人が多く、女性も約3倍、入会方法に興味を持ちました。交流会の中、来年度から4支部交流会に発展してはとの提議があり了承されました。なお、来年度は北九州支部と決定しました。話尽きない中、21時45分、第1日目を終了しました。

第2日目は、広島支部提供のパン・コーヒー・紅茶・ゆで卵・ウインナー・スープ等の朝食にもみじ饅頭の行動食まで準備頂きました。

A班 極楽寺山(693㍓)・極楽寺縦走 24人
B班 極楽寺散策 13人

当支部は、A班の極楽寺山縦走を選びました。キャンプ場から広島支部手配の車に乗って海岸側の標高100㍓の登山口まで移動、10時に登山を開始しました。途中色づき始めた紅葉、瀬戸内海のカキ棚を眺めながら急登を登る。約2時間で、県重要文化財に指定されている極楽寺(聖武天皇が建立し毛利元就が再興した古寺)に到着、少し遅れてB班も到着。

極楽寺散策の後、13時半、近くの山頂を目指す。20分で693㍓の山頂に到着しました。厳しくもよく整備された山でした。

下山途中、憩の森・蛇ノ池の名所を通り全員無事キャンプ場へ到着しました。テントを撤収して

一緒に昼食をとり解散する。広島支部へのお礼と来年の北九州支部での再会を約束してお別れです。広島支部の皆様有難うございました。

参加者：広島支部 森戸隆男支部長他 13 人
山陰支部 4 人 四国支部 尾野益大支部長他 12 人
北九州支部 7 人：馬場基介 榊俊一 竹本正幸
竹本加代子 縄手修 清家幸三 町元里香
(参加者名簿から)

令和 6 年 9 月 28 日 (土) ポレポレ山行
～ 岩石山 (454 ㍓) ～
1 5 6 1 6 奥田 スマ子

岩石山には山城・岩石城跡がある。また英彦山に近く、かつて山伏の修行場でもあった為、これらの遺構が山中の随所に観られる。花崗岩の岩肌は降雨直後でも歩き易く、公園と一体で設備も充実して登山する人が多い。私も体力づくりに時々登っています。

9 時 50 分 添田公園駐車場をスタート。まずは公園正面に鎮座する添田神社八幡宮にお参りして丹下洽会員から岩石城の歴史について簡単にお話ししていただきました。そして登山口へ移動して登山開始。今日は正面から入山して山頂を目指し、西尾根を下る反時計回りの周回コースを予定。登山道はよく整備されていて気持ちがいい。階段あり、急斜面ありの道を登って行き 11 時 30 分「奥の院」に着く。奥の院から山頂まではひと登り。「柱穴」、「本丸跡」など観て 12 時ちょうど山頂に到着した。山頂展望台からは宝満山方面、筑豊エリアの展望が拡がり景色を楽しんだ。



岩石山山頂 (写真 折野道法)

山頂で昼食後、希望者で巨石群の八畳岩まで足を延ばし 12 時 55 分 下山開始。途中でメンバー足攣りの為休みながら下山、14 時 45 分 公園駐車場に到着した。

九月になっても一向に気温が下がらず、今日も残暑厳しく最高気温 32℃の真夏日。時折吹く風に癒されながらの岩石山登山でした。

参加者 7 人：丹下洽 丹下香代子 縄田正芳
奥田スマ子 (CL) 中畑智子 (SL) 太郎良嘉親
折野道法

令和 6 年 10 月 17 日 (木) ポレポレ山行
～ 萩往還ハイク～
1 5 1 3 8 縄田 正芳

昨年の佐々並宿より萩・明木宿までのハイクに引き続き 2 回目の萩往還ハイクです。今回は佐々並宿より山口方面へ向かい長門・周防の国境で萩往還最大の難所である板堂峠 (5 1 1 ㍓) を越えて山口市天花・六軒茶屋までのコース約 10 ㍓のコースでした。

山口県庁駐車場に集まりスタート地点の佐々並道の駅へは 9 : 50 に着きました。歩き始めるとすぐに古い宿場町の面影を残した町並に入りました。その中に江戸期の目代所跡の建物を利用したという萩市の「萩往還おもてなし茶屋」があり情報収集の為立ち寄ったところ、萩焼の器に入ったコーヒーと地元のクッキーセットが目に入り全員早々にどっかと腰を下ろしモーニングコーヒーを楽しむことになりました。職員さんの温かいおもてなしもうれしいものでした。のんびりし過ぎてなんだか先が思いやられるスタートとなりました。

10 : 30 茶屋を出発し、さびれた家並みを抜けて山道へ。それも直ぐに途絶えて今は国道 (旧萩往還) として利用されている車道を歩きました。



参加者集合写真 (写真 縄田正芳)

時々車道はずれて昔ながらの往還を歩きましたが、前回の萩・明木までの道に比べて車道歩きの多いコースでした。しかし歩道もしっかり整備しており、静かな山村風景とところどころ紅葉した周りの景色を見ながらのんびりウォーキングを楽しむことができました。最大の難所である板堂峠の旧道には長門・周防の国境を表す「南周防国吉敷郡」「北長門国阿武郡」と彫り込まれたりっばな国境碑が建っていました。この往還を行き来した多くの志士や旅人たちを見守っていたでしょう。峠から天花・六軒茶屋まではかつての萩往還が残っており杉林に囲まれひんやりとした道はよく手入れがされた石畳の道でした。今にも昔の旅人た

ちとすれ違うのではないかと思うような雰囲気でした。

最終地、六軒茶屋には14:50頃着。ここはかつて参勤交代時毛利藩の殿様や家来たちの休息所があったところ。現在りっばな建物が復元されていました。ここでひと休みの後、15:00解散となりました。10月に入りだいぶ涼しくなったと安心していましたが当日なかなかの暑さ。車道歩きもあったので心配していましたが無事全に完歩できほっとしました。

参加者 7 人：園川陽造 原広美 内藤正美
丹下洽 丹下香代子 縄田正芳 太郎良嘉親

新入会員紹介コーナー

○北九544 吉光敏高

吉光敏高と申します。福岡県の低山を中心にソロで登っていましたが、活動の幅を広げ他の方と交流を増やしたい思いから今年 JAC 北九州支部に入会しました。今年の1月に観海アルプスに参加しましたが、仕事や育児の関係でそれ以降の山行に参加できていない状況です。タイミングが合えば今後の山行に参加したいと思いをします。よろしくお願いいたします。



○北九545 安倍功

4月入会の安倍と申します。会社仲間と登山を始めて5年目になります。北九州近郊からスタートし、福岡県、九州他県の山々と広げ、3年目からは日本アルプスを1回/年程度で登っております。レベルの高い山への独学登山に不安を感じ、登山技術を学びたく入会しました。

ご指導の程、よろしくお願いいたします。



○北九546 大谷陽子

入会の動機：会社の登山同好会仲間に誘われました。

山歴等：20代で友人に誘われた登山が楽しくてハマってしまい、県内や周辺の山に頻りに登るようになりました。50代でようやくアルプスデビュー。これから登山技術を学び、皆さんの体験談を聞かせていただき、できる限り多くの山に登ることが目標です。ご指導のほど、よろしくお願いいたします。



○北九547 吉田さや

初めまして、吉田さやです。昭和52年生まれの三姉妹の母です。普段は子供や愛犬と一緒に、地元の低山をのんびり登っています。今後は先輩方のサポートを受けながら、たくさんの登山の魅力を見つけて成長していきたいと思いをします。



○北九548 片手すみ子

山岳会に所属の友人からお誘いいただき支部友として加入しました。57歳から始め今年で16年目、登山知識がないままだただみんなについて登ってきました。今後は経験豊かな皆さまから多くのことを伝授して頂き山登りを続けていきたいと思いをします。



ヤマガラ(写真 橋川潤)

令和 6 年 11 月 16 日(土) 体カテスト
 ～登高能力テストを実施しました～
 13533 磯野 文雄

11月16日土曜日、午前9時に太宰府市内山にある山の図書館（九州登山情報センター）に、今回の参加者NさんとTさんが来られました。

登高能力テストは、安全に登山するために開発された、登山における体力を測るためのテストです。

登高能力テストは、1時間あたりの登高で標高何メートル登れるか、を測り自身の登山体力を数値（メッツ値）として把握して、安全な登山に資することを目的としています。大まかな目安としては、1時間で標高差300㍍を稼ぐことができれば6メッツ、同400㍍で7メッツ、同じく500㍍で8メッツの体力があると考えられています。

今回参加された方の登高能力は、1時間当たり400㍍以上あり、北アルプスなどの本格的な登山に耐えられる体力があると考えられます。

テスト後に、体の状態について振り返ってもらい、痛みのあるところを点検していただきましたが、どこにも痛むところはなかったようです。お二人の日頃のトレーニングの成果かと思われました。

最後に、このメッツ値を登山にどう活かすかについてお話しし、信州や群馬県の「山のグレーディング表」があることを知っていただいて散会いたしました。

令和 6 年 11 月 23 日(土) 自然環境保全事業
 森林保全一斉巡視活動(福智山 900㍍)
 16382 横山 秀司

コースタイム:上野峡入口駐車場 8:30→上野越え 9:40→鷹取城跡 10:00→上野越え→福智山 11:20→昼食 11:40→白糸の滝 13:10→駐車場 13:30

午前8時30分に直方市の上野峡入口駐車場に集合し、時雨模様の中、巡視活動を開始した。よく整備された沢沿いの登山道を登り、約1時間で上野越に着いた。そこから約15分のところに位置する鷹取城跡に登った。鷹取城（標高633㍍）は江戸時代の黒田藩によって築城された筑前六端城の一つで、1615年（元和元年）の一国一城令によって廃城となった。上野越に戻り、福智山頂上を目指して登山し、11時20分に頂上到着。時雨雲が絶え間なく北からやってくる寒い中、昼食をとり、早々、下山することにした。

下山は、八丁越えルートを取り、白糸の滝へ向かう。途中の急な登山道にはロープが設置されているが、標高500㍍付近から地質が花崗岩となり、マサ化されたところもあり下山に注意が必要であった。白糸の滝への分岐点から滝までは、急斜面の連続で、かつ、登山道も荒れており、慎重に下った。午後1時30分、駐車場に着き解散した。

今回の巡視活動では、特に森林保全に関して問題はないが、白糸の滝への分岐から滝までの登山道が荒れており、整備が必要と感じた。

参加者4人:赤瀬栄吉 横山秀司 太郎良嘉親
 安藤匡

令和 6 年 8 月 10 日(土)～11日(日) 個人山行
 槍ヶ岳から穂高連峰が
 モルゲンルートに染まる時間を楽しむ
 A0579 安藤 匡

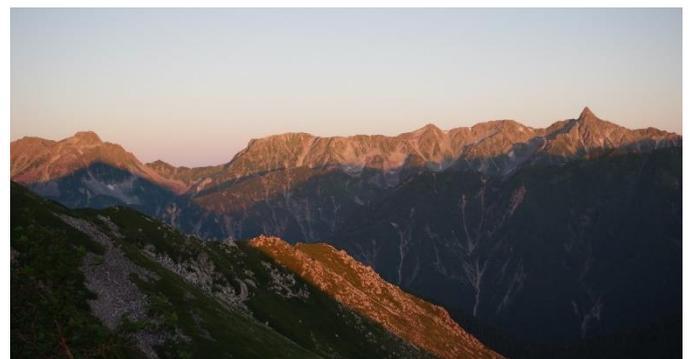
登山口までのアクセス：前夜、自家用車で中央道安曇野IC→県道495にて2:30登山口駐車場着

コースタイム：

8/10 三股駐車場 5:34→三股登山口 5:48→標準点櫓跡(2,207㍍) 8:12→前常念岳 10:19/10:48→分岐点 11:55→常念小屋 12:56
 (距離 7.3㍍ 登り 1,568㍍ 下り 402㍍)

8/11 常念小屋 4:21→常念岳 5:45/6:00→ピーク(2,542㍍) 8:24/8:30→蝶ヶ岳 9:47/10:00→瞑想の丘 10:43→蝶ヶ岳ヒュッテ 10:45/11:00→蝶ヶ岳 11:04/11:11→蝶沢 12:32→まめうち平 13:13→三股登山口 14:25→三股駐車場 14:37
 (距離 12.6㍍ 登り 951㍍ 下り 2,114㍍)

一週間前は天気予報が今ひとつでしたが、3日前に好転。東海支部のKさんに名古屋で拾って頂き、中央道・長野道の安曇野IC経由で2時半に三股駐車場に到着するも夏山シーズン真っ盛り、駐車場

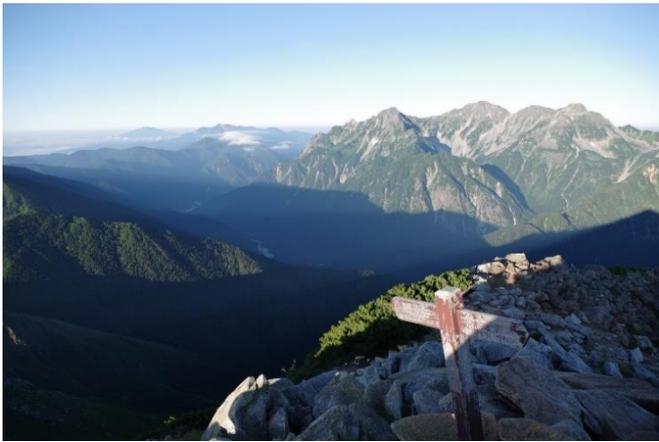


モルゲンルートに染まる槍・穂の大パノラマ(写真 安藤匡)

も9分方埋まっております夜明け前について正解でした。

初日の樹林帯はガスの中、前常念の岩場で青空が見え始め、雷鳥さんも出てきてご機嫌な尾根歩きになりましたが、常念小屋へまたまたガスに包まれたままお昼過ぎに到着。

翌朝は満天の星が薄れるのと共に東の地平線付近から水色、白、オレンジと変わって行くのを愛でながら、西側には槍ヶ岳から穂高連峰がモルゲンロートに包まれていく時間も楽しめました。今回の山行は蝶ヶ岳からの眺めを一番の楽しみにしていましたが、朝方の雲が一番少なく常念岳前後からの槍穂・焼岳・乗鞍・御嶽まで眺望が、ガスの増えた蝶からの眺めに勝りました。



常念小屋からの穂高連峰 (写真 安藤匡)

一点反省。恥ずかしながら蝶ヶ岳からの下り道で上ってくる方々に道を譲られ、つい小走りになったのが道幅の狭い箇所、足を置いた路肩が崩れ藪の中2ヵ所ほど転落…。幸い擦り傷で済みましたが、気を抜いてはいけないと思った次第。

今年の夏は、南アルプスの計画も雨飾山の予定も天候で中止となったので、大事な盛夏の思い出になりました。

参加者 2人：安藤匡 東海支部会員 1人

令和6年8月17日(土)～19日(月) 個人山行
～奥穂高岳・涸沢岳～
北九535 水落 ゆかり

コースタイム：

8/17 新宿バスセンター発、上高地行バス 7:15→上高地 12:10→かっぱ橋から登山開始 12:30→徳澤テント場(徳澤ロッジで入浴可)14:30
8/18 テント場 5:00→横尾キャンプ場 6:20→涸沢ヒュッテ 9:15→涸沢小屋から登山開始 9:50→穂高岳山荘 12:50

8/19 山荘 4:45→奥穂高岳 5:15→穂高岳山荘 6:15/6:30→涸沢岳 6:50→穂高岳山荘 7:40→涸沢ヒュッテ 9:45→横尾テント場 12:15→徳澤テント場 13:10/13:30→明神館 14:15→かっぱ橋 15:20

先週涸沢カールまで下見に来て、ザイテングラートを見上げ何か行けそうと思い、再びやってきた。新宿から「さわやか信州号」で昼に着き、徳澤テント場で一泊し、荷物をデポして翌日穂高岳山荘まで。次の日の夜明け前から奥穂登頂。余力ありで涸沢岳に登頂。

徳澤でテント片付け、最終バスで新島々駅、松本駅からあずさ、新宿着 22:45。

ザイテングラートでは、どなたか怪我をされたようで岩に血痕がぼたぼた着いていた。また女性が、何かにつまずいて、大きな石を飛び越えて落下。幸い岩の反対側が平らだったので滑落することはない。そんなことを目撃したこともあり、初めての奥穂高岳登山で緊張のため、前日はほぼ寝られなかった。

夜明け前からヘッドライトをつけて大勢が登り始め、前のパーティに着いてゆっくり登ることができた。小屋からみるといきなりの急登、梯子も2つ見えるし怖いなと思ったが、その後はそれほど怖くなかった。山荘まで下山後、まだ元気だったので涸沢岳にも登ってみた。帰りに徳澤からテントを担いで帰るのがきつかった。体力不足。山荘での皆さんの体験談を聞くのがとても楽しく、多めに勉強になった。



奥穂高岳 (写真 水落ゆかり)

令和6年9月14日(土)～20日(金) 個人山行
～ Let's Enjoy! 表銀座縦走
<シルバー登山> ~
<つれづれにふたこと・みこと・それ以上に>

コースタイム：

9/14 新門司阪九フェリーにて移動
9/15 泉大津港より移動→安曇野陽なた山荘宿泊
9/16 陽なた山荘 4:30→安曇野観光タクシー本社 4:50/5:00→中房温泉 5:50→登山口出発 6:15→第

1 ベンチ 6:45→第2 ベンチ 7:30→第3 ベンチ
8:10/8:20→合戦小屋 9:40/10:00→合戦の頭
10:25→燕山荘 11:30/12:00→燕岳山頂 12:37→燕
山荘 13:10

9/17 燕山荘 5:50→ゲエ口岩 6:35→大下りの頭
7:05→大天荘 9:40/10:22→大天井岳 10:34/10:56
→大天荘 11:05/11:15→大天井ヒュッテ 12:00

9/18 大天井ヒュッテ 5:40→ビックリ平 6:10→ヒ
ュッテ西岳 8:25/8:40→水俣乗越 10:15→ヒュッ
テ大槍(昼食) 12:40/13:15→槍ヶ岳山荘 14:50
(雨のため槍ヶ岳登頂ならず)

9/19 槍ヶ岳山荘 6:40→坊主岩小屋 7:45→大曲
11:00→赤沢岩小屋 12:45→槍沢ロッジ(昼食)
13:44/14:05→横尾山荘 15:37/15:42～徳澤
16:35/16:50→明神 17:30/17:40→河童橋 18:30
→上高地インフォメーション 18:35→山研宿泊
19:30

9/20 上高地→沢渡→北九州

《大町山岳博物館見学》

1 6 6 0 2 太郎良 嘉親

9/14 KMM ビル前に集合。新門司から阪九フェリ
ーで泉大津まで。

9/15 泉大津から車で移動。時間があつたので横
山先生お勧めの大町山岳博物館にて見学、楽しい
時間を過ごした。登山口に近く安曇野市の一棟貸
し別荘泊。

9/16 中房温泉近くの登山口から出発。大変な登
りに苦勞して合戦小屋へ。スイカを食べて一休み。
燕山荘にてザックを置いて燕岳へ。ガスが出てい
て眺望なし。一輪のコマクサにホッとする。燕山
荘泊。

9/17 燕山荘から大天井岳山頂。少しの青空と
山々が綺麗。大天井ヒュッテ泊。

9/18 曇り空の中、大天井ヒュッテから西岳、ヒ
ュッテ大槍へ。ここまでは、たまに青空もある位
だったが、槍ヶ岳山荘に近づいた頃雨足が強くな



槍ヶ岳山荘での懇談会 (写真 太郎良嘉親)

る。雷も時折！グッシヨリ濡れて槍ヶ岳山荘到着。
片付け後皆でビール等で懇談が楽しかった。

9/19 強い雨の中槍ヶ岳山荘を出発。槍沢ロッジ
位まで雨。不測の事態があり、山研に宿泊。

9/20 山研から北九州へ。

《夢中で歩いた表銀座》

1 5 6 1 6 奥田 スマ子

合戦尾根から燕岳、大天井岳へと続く稜線歩き
は気持ちがよく、西岳からは鎖や梯子の多さに驚
いた。峰々の美しさや深い谷など雄大な景色に圧
倒されながら夢中で歩いた気がします。きつかつ
たけれど楽しかった表銀座縦走路。この年齢(76
歳)でチャレンジできたのは仲間の存在あってこそ。
共に歩いた仲間への感謝は尽きない。私にとって
学びの多い、思い出深い山行になりました。



晴天の大天井岳で (写真 竹本加代子)

《思い出の北鎌尾根をながめながら》

1 6 1 6 3 中畑 智子

表銀座縦走登山に参加させて頂いて有難うござ
いしました。水俣乗越から北鎌尾根コースを眺めな
がら縦走路を歩いていると16年前のことを思い
出し懐かしさでいっぱいになりました。北鎌尾根
から槍ヶ岳山頂へ続く槍の穂先はとうとう最後ま
で雲の中でした。それが一つ残念でした。

横山先生には地形のことなど色々教えて頂き、
勉強になりました。有難うございました。

《長年の願望燕岳登頂達成》

1 6 3 8 2 横山 秀司

1971年8月、当時23歳の私は友人と3人で今回
とほぼ同じコースで槍ヶ岳を目指しました。その
時の山行では、梯子や階段の多い東鎌尾根に登っ
たのに、疲れた、辛かったという記憶は一切あり
ません。よく登ったな、と思います。

さて今回の敬老登山では、53 年前にパスした燕岳に登ることが目的の一つでした。燕岳頂上では、長年の願望を達成することができて感慨一入でした。燕山荘から大天井岳・西岳までは順調でしたが、東鎌尾根の途中から腰の痛みを感じるようになりました。槍岳山荘までの 1 時間の道のりは、腰痛が次第にひどくなりましたが、雷雨の中、なんとか山荘に到着しました。

槍沢を下る翌日は、初めは竹本リーダーのペースについて行くことができました。しかし、次第に腰痛がひどくなり、歩行がやっとという状態になりました。リーダーの指示で、私の荷物を分散して仲間に持ってもらうことにしましたが、ペースはどんどん落ち、サブリーダーの竹本さんの肩を借りて休み休みの下山でした。槍沢ロッジで私は歩行困難な状況になり、メンバー 5 人と別れ、一人でここに一泊することにしました。

翌日は 6 時にロッジを出発して、13 時に上高地バス停にたどり着きました。私の体調不良により、メンバーの行程が大幅に遅れたため上高地からの最終バス、タクシーに間に合わず、上高地で一泊しなければならない事態になったこと、大変申し訳なく思っています。竹本さんご夫妻、中畑さん、奥田さん、太郎良さんには大変お世話になりました。改めてお礼を申し上げます。

《次のシルバー登山はいずこへ！》

1 4 8 5 3 竹本 加代子

「敬老登山」これは山行中銘打った言葉であった。山行後に「シルバー登山」と変更した。いわゆる高齢者には変わらないがちょっと格好をつけてみた。

コロナ後の山小屋は予約が取りづらく表銀座の核心部の東鎌尾根の行程が長くなってしまった。4 月から毎月トレーニングを重ねて臨んだ山行はそれを経て頑張れた喜びもあったが、思いがけないトラブルもあり学びの多いシルバー登山となった。今後活かしたい。

これから一つずつ歳を重ねていくが楽しい登山を続けたいと思う。さて、次のシルバー登山はどこへ行こうか！

《全てに余裕を持って行動》

1 4 8 5 2 竹本 正幸

今回の山行は、75 歳以上が 5 人と 69 歳一人の平均年齢が 76 歳というシニア登山であった。事前に九重山や福智山など長時間の歩行訓練は行ったが、4 日間連続して歩くことを想定したトレ

ーニングは実施しなかった。心残りは、メンバーが最後まで共に行動できなかったことである。

釜トンネルは、19 時以降完全閉鎖になることも確認せず、照明もない真っ暗なバスターミナルでメンバーを不安な気持ちにさせてしまった。日本山岳会の「山研」に連絡して、宿泊を受け入れて頂き助かった。時間と体力に余裕をもって行動することが必要不可欠と感じた。

いろいろトラブルはあったが、メンバーの協力で無事下山することができた。有難うございます。

今回の教訓を今後の登山に生かして、未永くたのしい登山を続けましょう。

参加者 6 人：竹本正幸 奥田スマ子 中畑智子
横山秀司 太郎良嘉親 竹本加代子

令和 6 年 9 月 17 日(火)～21 日(土) 個人山行
～近畿最高峰の大峰山・八経ヶ岳へ～
1 7 3 4 5 堀内 博史

コースタイム : 9/19 洞川温泉 5:30→行者還り西
口登山口 6:30/6:50→奥駆道出合 8:10→弁天の森
8:40→<聖宝ノ宿跡>→弥山小屋 11:20

9/17(火)～9/21(土)の日程で八経ヶ岳 1914 ㍎と稲村ヶ岳 1725 ㍎の二座登頂出来ました。八経ヶ岳は 10 年前に下見で稲村ヶ岳は一昨年 4 月に積雪のため登山出来ませんでした。今回は天候にも仲間にも恵まれ登頂出来ました。熊野古道との関連深い今回の登山は稲村ヶ岳に先行登山し翌日に八経ヶ岳の連続登山でしたが目的達成出来ました。次回は紅葉シーズンの山上ヶ岳～吉野ルートや熊野古道の小辺路ルートを歩いた後の体の癒しに紀伊勝浦のマグロ等海鮮料理も食べたいですね！



八経ヶ岳山頂 (写真 堀内博史)

9月19日朝洞川温泉を出発し、1時間ほどで行者還り西口登山口に到着する。登山口1100㍍を出発。スタートから急登を登り奥駆道出合に到着。しばらく尾根歩きを楽しみ1600㍍の弁天の森に到着。さらに進んで聖宝ノ宿跡を後にしてこの先階段の登りが続いた。11時20分立派な小屋だが休業中の弥山小屋に到着。そこから一度下り鹿防護柵の開け閉め二ヶ所を登りながら12時20分に最高峰の八経ヶ岳1914㍍登頂出来ました。

山頂からは四国の山々や360度眺望を堪能することが出来ました。紀伊半島の展望や達成感に大満足で最高の気分です。弥山小屋に戻って昼食後13時30分下山を開始する。16時行者還り登山口を後に今夜の宿坊、高野山に向かいました。

今回の同行者は九州から片手さん、現地合流で大阪在住の曾根さん2人の女性に元気づけられて無事達成出来た登山で次回は九州での再会登山を楽しみに帰路につきました。

参加者3人：堀内博史 片手すみ子 大阪の友人

令和6年9月22日(日)~24日(火)

個人山行(韓国ソウル)

~ワクワク・ドキドキの韓国の山旅~

14853 竹本 加代子

9/23 北漢山コースタイム：北漢山牛耳駅 9:11→北漢山国立公園 9:31→登山口 10:05→ハル峠 10:55→仁寿庵 11:10→避難所 11:30→衛門 11:45→白雲台山頂 12:10/12:15→山頂直下(岩のテラスで昼食) 12:20/12:40→衛門 13:00→コース変更<仁寿庵>→登山口 14:10

9/24 仁王山コースタイム：景福宮駅 8:36→登山口 9:16→仁王山山頂 10:05/10:15→<別ルート>登山口 10:45 景福宮駅→明洞

この度、山口県ハイキングクラブ山歩の自主山行「北漢山(ブカンサン)・仁王山(イナンサン)」に参加した。企画された武永さんは共に参加された北九州支部の会員でもある藤井夫妻と「山岳コーチ1」という山岳指導員の取得のきっかけを作って下さり、ご指導いただいたご縁である。表銀座山行を終えて、1日の休養をはさんで「いざ出発！」

計画は半年ほど前から、2泊3日の行程でソウルのどの山に登るか立案し計画されていた。山選び、食事、買い物、雨天の場合はと韓国の情報が共有されていた。Wi-Fi・レート・両替・カード・Tマネー・翻訳アプリ・地下鉄アプリと色々

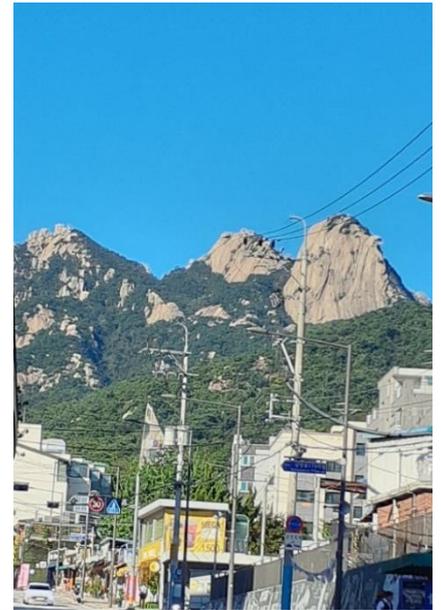
発信された。それに対応出来るか不安を抱えての出発であった。

主目的の山は、ソウル近郊の山「北漢山・仁王山」に決まった。どちらの山も駅から登山口までのアプローチが短く花崗岩の特徴的な山である。ソウルの城壁のように低山ながらそびえ立っている。

北漢山は万景台、白雲台、仁寿峰の3つの峰からなり仁寿峰は

岩登りのメッカである。米粒のような小さなクライマーが見られた。白雲台は韓国の国旗がたなびき、平日にも関わらず撮影の列ができた。

翌2日目に登った仁王山は城郭が山頂まで続き外敵から国を守る山城が偲ばれた。山頂からはソウルの高層ビル群が360度のパノラマビューで望めた。山のお昼は申し合わせたようにキンパをほおばったのは言うまでもない。山中は整備され、なんの心配もなかったが町の中の移動は苦手である。地下鉄の移動はアプリを活用しながら少し分かってきた。「何とかなるさ~」と思えてきたのは不



北漢山 (写真 竹本加代子)



仁王山 (写真 武永計介)

思議なことだ。色々な意味でかたい頭も少し柔らかくなった気がした。韓国の文化にもふれ初めから終わりまでワクワクの楽しい山旅であった。

参加者9人：武永計介 竹本正幸 藤井信義
藤井淳子 竹本加代子 ハイキングクラブ山歩のメンバー

令和 6 年 9 月 25 日(水)~10 月 15 日(火)

個人山行

~天空のネパール、ヒマラヤ

21 日間トレッキング~

<ミドルビューポイントベースキャンプ (4600 ㍍)
とピケピーク (4065 ㍍) 登頂>

17126 大山 時彦

日程/コース :

・ 9/25~10/4

9/25 カトマンズ (1250 ㍍) →ポカラ→オーストラリアキャンプ (2600 ㍍) →9/30 ホレストキャンプ (2600 ㍍) →10/1 ハイキャンプ (3600 ㍍) →10/2 ミドルビューポイントベースキャンプ (4600 ㍍)

・ 10/5-6 (カトマンズ休養)

・ 10/7~10/15

10/7 ダップ (2932 ㍍) →ラムジェ (3500 ㍍) →ベースキャンプ (3640 ㍍) →10/10 ピケピーク (4065 ㍍) →10/14 カトマンズ出国→ソウル→10/15 福岡着

参加者 7 人 (男 5 人 女 2 人) : 大山時彦 (70 歳)
他 69 歳~81 歳 (平均 74 歳)

私は海外の山トレッキングは初めての参加でした。そこで、エベレスト登頂が 2 回あり、ヒマラヤには 60 回程行かれています、北九州の登山ガイド山下建夫さんをリーダーとして約半年前に計画を立て友人 6 人を誘っての海外山行でした。平均年齢が 70 歳以上と標高が 4000 ㍍以上の計画で当初は少し不安を抱いていました。山下さんからは、現地ガイド 1 人と荷物等を持ってくれるポーター 3 人を手配しているとの報告で、また出発 10 日前には、英彦山駅からのロングコースを皆で歩けたので、この位歩ければ大丈夫とのことでした。

福岡⇒ソウル⇒カトマンズの空路でネパール入りし、1 日休養してバスで都市のポカ行きトレッキ



ピケピークから見たエベレスト(中央左) (写真 大山時彦)

ングとなりました。前半 9 日間はミドルビューポイントベースキャンプ (4600 ㍍) を目指すコースでした。現地ガイドさんが私たちの年齢に合わせて、スローペースで上がり流調な日本語で説明を入れてくれ、楽しさも増してきました。また、途中々にロッジがあり休憩にミルクティー等も飲み心地よい行程でした。食事関係はネパール料理の代表カレー風味のダルバートが主でした。カレー香辛料が強く私にはあまり好みでなく、ピザやオムレツをよく注文しました。酒類は現地ビールやククリ (サトウキビのラム酒) が主で飲みやすかったけど、標高が高くなるにつれ、酔いも早くなるようでした。



ベースキャンプよりアンナプルナ方面 (写真 大山時彦)

景色は普段絵葉書やポスターで見るような雪に覆われたアルプス山脈が目の前に現れ、声が出ないほどの感動でした。春 (5 月頃) は花が綺麗で秋 (10~11 月頃) は天気が乾季との説明で、高山花植物はあまり残ってではなく、驚いたのはシャクナゲの大木で日本なら 2~3 ㍍位ですが、シャクナゲ林があり、直径が 30 ㍍高さが 10 ㍍程の大木林が続くのには驚きでした。5 月頃は山一面がピンクや赤白に染まるそうで、また見に来て下さいの説明でした。さほど高山病も影響せず、4600 ㍍まで登ることができました。道中は平尾台のような登山道でした。



平均年齢 74 歳の山人 (写真 大山時彦)

カトマンズに戻り後半のピケピークを目指す計画で移動はバスで 7 時間位の予定でした。しかし大洪水後で山道が崩壊して通れなくジープのチャー

ターで、行きが 15 時間、帰りが 13 時間のサバイバル的な移動でした。日本では絶対通行止めの道路がジープで乗り越えていくもので、長時間の移動は山の道中より疲れるものでしたが普段体験できるものではないと記念すべき道中でした。

皆さん元気に 21 日間のヒマラヤ体験ができ満足して帰国できて何よりでした

日本の良さ衣食住、水、電気等のインフラ整備の有難さを深く感じるヒマラヤ山行でした。



絶壁からなるブラフノール (写真 橋川潤)

令和 6 年 11 月 5 日(火) 個人山行
～花のスターリング山脈～

17031 橋川 潤

Gondwana 大陸を起源とするオーストラリア。日本を含むユーラシアと近縁の植物はあまりなく、アフリカなどと近縁種が多い。特に西オーストラリアは 7 月から 12 月にかけてワイルドフラワー前線が南下することで有名な地域。花の時期に合わせた旅はコロナ禍などのため延び延びになっていたがやっと妻と二人で行くことができた。

西オーストラリアの州都パースでレンタカーを借り、花を見ながら各所にあるトレッキングコースを歩いた。5 日目にスターリング山脈に近い都市アルバニーに到着。翌日、山脈の主峰 Bluff Knoll (ブラフノール : 1097 ㍎) に向かった。駐車場まで舗装道路、宿から 95 ㍎、約 1 時間の距離だ。ここで登山靴に履き替える。

オーストラリアは観光と農畜産業が大きな産業。そのため自然環境の保護に厳しい政策がとられており、1 回履いた登山靴は外来の植物種子、雑菌等の進入を防ぐため入国時に検疫を受けなければならない。靴はよく洗っており入国カードに申告もしていたので係員との簡単な対応で検査もせずに通してもらった。

登山道はよく整備されており、登山者も多い。登山口を 7 時 15 分に出発。山頂の太古の地層が



断崖絶壁のブラフノール山頂 (写真 橋川潤)

ら成る Bluff (断崖) を正面に見ながら歩き始める。降水量の少ないこの地帯は低木の疎林からなり下層にはきれいな花々が沢山みられる。看板には気温の急変に注意、往復 3~4 時間とある。崖の下部を通り尾根の台地に着く。そこからは緩やかな尾根をたどり山頂には 9 時 40 分に到着。山頂からは山脈の数々の鋭峰が見渡せ、その周囲には大平原が続いている素晴らしい眺めだ。登山口には 1 1 時 50 分に戻ったので午後からは隣 (西 20 ㍎) の Mt. Trio (トリオ山 : 856 ㍎) に向かうことにした。

トリオ山の駐車場までの最後は赤土のダート。13 時に登山を開始する。最初はやや急な道が続くがここも花を見ながら歩くので楽しさが勝る。14 時 10 分に主峰と東峰の鞍部に到着し、まず主峰へ向かう。ここからはなだらかな道が続き、山頂には 14 時 40 分着。しばらく花と眺めを楽しみ、東峰経由で 16 時 25 分に下山した。

日本の山の花々はどちらかというと控えめな美しさなのに対し、こちらはピンク、黄、濃青、赤など目を見張る色彩で、花でもお国柄の違いを感じた花と山の旅だった。



スターリング山脈の花々 ダーウィニア(左上)、グーデニア(右上)、ポロニア(左下)、ダンピエラ(右下)
この地方の固有種が多い (写真 橋川潤)

山行・行事のお知らせ

— 2月 —

● 第4回登山入門講座

積雪期登山を学ぼう(装備・歩き方・ツェルトによるピバーク・雪洞を作ろう等)

期日 2月15日(土)

場所 深入山(広島県安芸大田市)

集合 文化記念公園駐車場 6時(小倉南区田原5-1)

申込み 町元里香 Tel090-9572-6939(SMS)

✉ yunae.runa@gmail.com

締切り 2月1日(土)

※装備についてはご相談ください。

乗り合わせて行けます。

— 3月 —

● 月例山行(1) 雪山を楽しもう!!

(2月の予定が変更になりました。)

期日 3月1日(土)~2日(日)

場所 大山(鳥取県)

集合 文化記念公園駐車場 6時(小倉南区田原5-1)

申込み 町元里香 Tel090-9572-6939(SMS)

✉ yunae.runa@gmail.com

締切り 2月1日(土)

宿泊 大山ゲストハウス寿庵

Aコース:スノーシューやワカンを使って雪山で遊ぼう

Bコース:雪上訓練と雪の大山を登ろう

※装備についてはご相談ください。

乗り合わせて行けます。

● 月例山行(2) 古道を歩こう

<その昔修験者が英彦山を目指して歩いた秋の峰入り>

期日 3月29日(土)

場所 秋の峰入り一部・福智山から金満尾根(両貝権現)

集合 鱒淵ダムサイト 7時30分

(車を下山口へ数台回す)

行程 鱒淵ダム→<自然歩道>→福智山→赤牟田の辻→金満山→満干越し→金満尾根登山口(所要時間約7時間30分)

申込み 竹本加代子 Tel:090-9253-1260(SMS)

✉ takemoto.masayuki@white.plala.or.jp

締切り 3月16日

※車の乗り合わせはお問合せください。

— 4月 —

● 月例山行 裏英彦山ロング周回コース

~2024 高校総体南岳コースに挑戦~

期日 令和7年4月13日(日)

集合 別所駐車場 9時

コース 青年の家→高住神社→ケルンの谷→南岳→大南神社→奉幣殿→青年の家(所要時間6~7時間)

申込み 大山時彦 ✉ ooyamagumi717@gmail.com

締切り 4月3日(木)

● 第26回通常総会・懇親会

期日 令和7年4月19日(土)

場所 毎日西部会館

※詳細は後日お知らせします。

— 5月 —

● 月例山行 四国遠征 岩稜と花の赤石山系 ~愛媛県の急峻な山脈の岩と花を楽しもう~

期日 5月9日(金)~5月12日(月)

集合 5月9日(金)21時 小倉駅

行程

5/10 筏津登山口→東赤石山→八巻山→西赤石山→日浦登山口

5/11 ニツ岳登山口⇄ニツ岳⇄エビラ山

5/12 大田尾登山口→大座礼山→登山口

宿泊 ゆらぎの森キャンプ場(テント泊)

経費 約2万円

問合せ・申込み

橋川潤 ✉ hashikawa_0406@yahoo.co.jp

締切り 4月11日(金)

※詳しい内容はお問い合わせください。

— 6月 —

● 森林保全巡視活動(前期)

笠置山 425.1 丸(飯塚市/宮若市)

日時 6月7日(土) 9時30分集合

集合場所 いこいの里「千石」駐車場

行程 駐車場→千石駐車場→笠置山→千石→駐車場(周回コース) 活動時間:3時間程

申込み 赤瀬榮吉 Tel090-7475-9748(SMS優先)

✉ b105ei.akase@cap.ocn.ne.jp

締切り:5月24日(土)

※森林保全巡視員以外の方も参加できます。

日程を含め変更することがあります。

● 月例山行 ササユリの筋ヶ岳・弟見山

期日 6月15日(日)

集合 文化記念公園駐車場 6時15分

場所 山口県周南市筋ヶ岳・弟見山

行程 屋敷川登山口→筋ヶ岳→弟見山→登山口

申込み 橋川潤 ✉ hashikawa_0406@yahoo.co.jp

締切り 5月31日(土)

— ポレポレ会山行 —

● 令和7年3月 バスハイク

*早春の花を楽しもう!

六日市カタクリの里から

徳佐八幡宮シダレザクラへ

期日 令和7年3月29日(土)

集合 小倉駅北 KMMビル前 7時10分

門司駅北口 7時30分

湯田PA 8時30分

行程 小倉駅北口(7:10)→門司駅北口→六日市カタクリの里(10:00)→徳佐八幡宮→山口県庁→門司駅北口→小倉駅北口(17:00)

申込み 丹下 洽 090-3732-8843

締切り 令和7年3月15日(土)

費用 約5500円

その他 バスは10人乗りです。

令和6年度 行事・月例山行計画			※赤字:変更になっているものがあります。		
月	日	行事・山行	担当	内 容	実施人数
4	7日(日)	月例山行	山行委員会	日出山～大山～関の山縦走(担当 大山)	11人
	13日(土)	ポレポレ 干支の山	原	秋吉台龍護峰	9人
	19日(金)	登山講習会(オンライン19時～20時30分)	本部	登山の基礎と装備について	
	20日(土)	第25回通常総会・懇親会	支部行事	毎日新聞会館	25・22人
5	11日(土)～12日(日)	月例山行	山行委員会	親父山(担当 橋川)	中止
	18日(土)	自然環境保全事業	横山	希少植物・ムラサキの監視活動、平尾台	9人
	19日(日)	岩登り	山行委員会	陶が岳(担当 竹本)	6人
	25日(土)～26日(日)	全国支部懇談会	支部行事	岡野金次郎碑前祭	8人
	29日(水)	ポレポレ	縄田	山口宇部空港バラ園、常盤公園一周ウオーク	9人
	31日(金)	登山講習会(オンライン19時～20時30分)	本部	基礎の地図読み(1)	
6	8日(土)	自然環境保全事業	赤瀬	森林保全巡視活動、大根地	7人
	13日(木)	ポレポレ	縄田	白石山(山口市)	9人
	16日(日)	月例山行	山行委員会	オルレ 筑豊・香春コース(担当 奥田)	11人
	21日(金)	登山講習会(オンライン19時～20時30分)	本部	基礎の地図読み(2)	
	22日(土)～23日(日)	夏山フェスタin福岡	支部行事		11人
7	6日(土)	第1回登山入門講座	山行委員会	オリエンテーション、山のトイレのルールやマナーについて(担当 磯野)	4人
	6日(土)	月例山行	山行委員会	ロープワークと室内クライミング(担当 縄手)	13人
	12日(金)	登山講習会(オンライン19時～20時30分)	本部	基礎から学ぶ気象講習	
	20日(土)	ポレポレ	縄田	長門峡散策	中止
	21日(日)	第2回登山入門講座	山行委員会	観天望気、地図読み(担当 清家、竹本)	中止
8	11日(日)	山の日	支部行事	風師山	中止
	24日(土)	沢登り	山行委員会	福智山山系の沢(担当 竹本加)	7人
	30日(金)～9月3日(火)	特別山行 長野遠征	山行委員会	北アルプス 濁沢～パノラマコース (担当 町元)	中止
9	13日(金)	登山講習会(オンライン19時～20時30分)	本部	山の生活技術	
	21日(土)	月例山行	山行委員会	英彦山山系 鷹ノ巣山	7人
	28日(土)	ポレポレ	丹下	岩石山	7人
10	15日(土)	自然環境保全事業	横山	セイダカアワダチソウ除去作業、平尾台	中止
	6日(日)	岩登り	山行委員会	日向神(担当 竹本)	中止
	11日(金)	登山講習会(オンライン19時～20時30分)	本部	基礎から学ぶテント設営	
	12日(土)～13日(日)	月例山行	山行委員会	虚空蔵山、多良山系	11人
	17日(木)	ポレポレ	縄田	萩往還ウオーク(佐々並宿～山口市天花)	7人
	19日(土)	山の自然学習登山	横山	Geoトレッキング、目配山	中止
	19日(土)	山サロン(テントを張って 三高山山小屋)	山行委員会	三高山山小屋	中止
	20日(日)	第2回登山入門講座	山行委員会	三高山	12人
27日(日)	積有恒碑前祭	支部行事	風師山	41人	
11	3日(日)～4日(振休)	月例山行(1)	山行委員会	しま山100選(平戸)	中止
	3日(日)～4日(振休)	宮崎ウエスタン祭	事務局		6人
	8日(金)	登山講習会(オンライン19時～20時30分)	本部	基礎のセルフレスキュー	
	9日(土)	ポレポレ	奥田	馬ヶ岳・御所ヶ岳ウオーク	中止
	9日(土)～10日(日)	広島支部交流会	支部行事	広島県廿日市市極楽山キャンプ場	7人
	15日(金)～17日(日)	安全登山指導者研修会(西部地区)	事務局	国立登山研修所主催 高知県	
	16日(土)	マイベース登高能力テスト	磯野	宝満山	3人
	17日(日)	第3回登山入門講座	山行委員会	テント設営、セルフレスキュー	中止
	23日(土)	自然環境保全事業	横山	森林保全巡視活動、福智山	4人
	30日(土)	月例山行(2)	山行委員会	国東六郷満山一津波戸山	8人
12	7日(土)～8日(日)	年次晩餐会	本部行事		
	13日(金)	登山講習会(オンライン19時～20時30分)	本部	山の救急医療	
	14日(土)～15日(日)	忘年登山	山行委員会	九重山系 民宿泊	
	15日(日)	忘年の集い	支部行事		
1	10日(金)	登山講習会(オンライン19時～20時30分)	本部	雪山の登山	
	11日(土)	ポレポレ	縄田	戸畑三社参り、金毘羅山	
	19日(日)	月例山行	山行委員会	干支の山 蛇焼山～黒髪山	
2	13日(木)	ポレポレ	太郎良	剣立山・堀越城跡ハイク(小倉北区)	
	15日(土)	※第4回登山入門講座	山行委員会	※積雪期登山を学ぼう 深入山	
	21日(金)	登山講習会(オンライン19時～20時30分)	本部	はじめての雪山基礎講習1	
3	1日(土)～2日(日)	※月例山行(1)	山行委員会	※雪山を楽しもう 伯耆大山	
	29日(土)	※月例山行(2)	山行委員会	※古道を歩こう	
	29日(土)	ポレポレ	縄田	六日市カタクリの里、徳佐八幡宮シダレザクラ	

※各行事の担当者の連絡先については事務局の清家幸三(下記)までお尋ねください。

メールアドレス aqam2kd9k@fuga.ocn.ne.jp 携帯電話090-8664-4411

会務報告

令和 6 年度 第 4 回役員会議議事録

事務局長 清家 幸三

日 時 令和 6 年 9 月 12 日 (木) 18 時 30 分～
場 所 リモート
出席者 竹本正幸、榊俊一、横山秀司、馬場基介、
町元里香、橋川潤、清家幸三
欠席者 縄田正芳、日向祥剛

I 竹本支部長挨拶

連日の猛暑は続いているが体に気をつけてしっかりとトレーニングをして欲しい。特に遭難には気をつけて欲しい。

II 議題

1 榊有恒碑前祭 (10 月 27 日) の進め方と役務分担について

(1) スケジュールの確認

門司港駅前 8 時 30 分～風師山風頭 9 時 50 分
集合 8 時 00 分
碑前祭 10 時 00 分～10 時 30 分
門司海都にて食事会 12 時 00 分～14 時 00 分

(2) 役務分担について

イ 案内状

- ・本部飯田肇副会長、坂井プロジェクトリーダー、東九州支部、福岡支部、宮崎支部、熊本支部へ送付。
- ・門司区長、毎日新聞社 横山秀司と清家幸三が持参。
- ・門司歩こう会、風師山早朝登山会 丹下治さんに依頼。

ロ 碑前祭の進行係

- ・司会、献花、御神酒奉納、山の歌

ハ 食事会 席順表、名札作成は竹本正幸

ニ 横断幕製作 竹本正幸

ホ 記念写真撮影 安藤匡

ヘ 送迎の有無 状況による

ト 記念品 昨年と同じ。35 個用意し袋詰め
役割 清家幸三

チ その他

- ・会員への通知は 9 月 27 日まで。
- ・天候不順の時は前日に知らせる。
- ・登山道の整備及びチェック
- ・参加者は本部、会友等含めて 35 人
- ・10 月 21 日 13 時 00 分よりルームにて臨時の実行委員会を開催。

III 報告、連絡事項

- 1 会員状況
正会員承認 52 人、支部友 25 人、準会員 1 人で計 78 人
- 2 支部友 片手すみ子さんが入会。
- 3 広島支部交流会 別紙資料送付済

会務報告

第 8 回榊有恒碑前祭 実行委員会

事務局長 清家 幸三

日 時 令和 6 年 10 月 21 日 13 時 00 分～
場 所 ルーム
出席者 竹本正幸、横山秀司、馬場基介、町元里香、橋川潤、清家幸三
欠席者 縄田正芳、日向祥剛、榊俊一

確認事項

- 1 スケジュールの確認
式典の祝辞と食事会の挨拶 別紙式次第
- 2 参加者名簿の確認
- 3 担務の確認
 - ・式典：進行…清家幸三 献花…町元里香
御神酒奉納…榊俊一 山の歌…橋川潤
 - ・式典挨拶文代読：門司区長は馬場基介、毎日新聞社代表は縄田正芳
 - ・式典の参加者チェック：門司港駅前にて清家幸三、大山時彦、縄手修（記念品渡し）
 - ・式典参加者へ記念品：清家幸三
(21 日にモンベルで引き取り袋詰め)
 - ・食事会の参加者チェック；会場にて縄田正芳、竹本加代子
 - ・会計；縄田正芳、竹本加代子（森元会長、飯田副会長、坂井 PL は会費無料）
 - ・横断幕設置：式典、食事会会場 橋川潤、将口晋司、安藤匡
 - ・名札作成：竹本正幸
会場での配布は受付時に渡す。
 - ・テーブルの席順決め：竹本正幸
会場セットは橋川潤、将口晋司、安藤匡
 - ・写真係：安藤匡
 - ・食事会会場のパネル展示：橋川潤、将口晋司、安藤匡
 - ・食事会開催挨拶：榊俊一、閉会挨拶：横山秀司
 - ・記念切手の販売：町元里香
30 シート(内 6 シートは吉川さん)残り 24 シート
- 4 雨天時の碑前祭会場
食事会会場と同じ門司海人にて 11 時 00 分から

会務報告

令和 6 年度 第 5 回役員会議議事録

事務局長 清家 幸三

日 時 令和 6 年 11 月 14 日 (木) 13 時 00 分～
場 所 ルーム
出席者 竹本正幸、榊俊一、馬場基介、縄田正芳、町元里香、橋川潤、清家幸三
欠席者 横山秀司、日向祥剛

I 竹本支部長挨拶

10 月から槇有恒碑前祭、宮崎ウェストン祭、広島支部交流会と続いた。今回の広島支部交流会は四国支部、山陰支部の三支部交流会に参加した。今後は、北九州支部も入り四支部交流会となって、交流の場を広げ深めることになった。来年は北九州支部の当番となって開催することになった。日程、場所等を早く決めて取り組んでいきたい。

II 議題

- 1 12月7日、8日の晩餐会の参加者について
現時点は関口、大山、日向の3人。堀内さんには確認をとる。
- 2 12月15日の忘年会詳細決定
18時00分からコール天にて開催。当初予定のオークションは総会後の懇親会ですので今回は取りやめる。現時点では参加者が少ない。
- 3 来年度の事業・山行計画
 - (1)25周年の特別山行は実施しない。
 - (2)月例山行は月に一回とする。
 - (3)山行委員会を11月18日に竹本支部長も入って来年度の方向を決める。決まった内容は各役員へ知らせる。
 - (4)来年度は竹本支部長を主幹として登山入門講座を年6回開く。新会員を確保することが目標。
 - (5)Geo トレッキングと平尾台の自然保護活動は各2回で計4回とする。
 - (6)夏山フェスタ In 福岡は来年1月か2月ごろに方向性が決まる。
 - (7)8月11日の山の日の親子登山は日程を見直す必要がある。
- 4 来年度の支部の体制について
12月に臨時役員会を開く。

III 報告、連絡事項

- 1 槇有恒碑前祭の反省
 - (1)会場を見直す。
 - (2)会費制にする。

(3)会場の設置は若い2人の動きが良かった。

(4)受付、会計を早くした方がよい。

- 2 宮崎ウェストン祭の報告
- 3 広島支部交流会の報告
- 4 裁判所委託山行の報告
- 5 会費納入状況

深田、中村、三原、古賀と松岡、長谷川の計5人が未納。

6 会員状況

正会員53人、支部友24人、準会員1人の計78人。

7 新会員の入会について

10月は支部友 片手すみ子
支部友から正会員 堀内博史

8 支部便りの状況

来年1月発行で締め切り日を厳守する。

9 財務状況

会員が減って厳しい状況で推移している。

IV その他

1 次回役員会の日時

1月9日18時30分時から リモート会議

編集後記

太宰府市の宝満山は麓の池で発生するヒキガエルが大集団で登山することで有名になった。それをじっと待ち構えているのはカメラマンだけではない。ここでヒバカリを見たことがある。目の前を通る子カエルを食べていたのであろう。めったに見かけないが小さくてかわいくておとなしいヘビである。昔は毒蛇とされており、噛まれたらその「日ばかり」の命、ということからその名前がついたという。

今年は巳年。山で会うヘビたちにももっと目を向け、同じ山の仲間としてその存在を認めてあげよう。

(JH)